

# 河本晃一フェアレディZ、『狙えるエビス』で今季初優勝！



「一年間優勝から離れてたので、嬉しい。この先に繋げたい」。PN2クラスは河本晃一選手が2本ともベストを叩き出して今季初優勝を飾った。

## 今

年の全日本ジムカーナ選手権は序盤3戦を東日本で受け持つ形としている。開幕戦筑波、第2戦もてぎに続いて第3戦も、東北福島のエビスサーキット西コースで開催された。

今回のコースレイアウトはこれまでの大会を踏襲して、西コースの中央部分を使用。メインストレートもショートカットなどを使用してテクニカルな設定にするなど、アベレージスピードは高めながら随所にパイロンを置き、シビア

なセクションも盛り込んだ。

昨年、山野哲也選手が通算100勝というメモリアルな優勝を飾ったPN2クラス。ヒート1は河本晃一選手が1分25秒729を叩き出してトップに立つ。山野選手は26秒538で3番手につけた。勝負の2本目。「スタートしてすぐに『イケる』という手応えを感じたので、あとはひたすらプッシュした」河本選手は24秒583まで自らの暫定ベストを更新して山野選手のタイムを待ったが、山野選手はタイムを1

秒以上も詰めたものの、24秒台には届かず。河本選手が約1年ぶりとなる勝利をもぎ取った。「Zが有利と言われたこのコースでようやく勝てました。昨日までは全然いい所がなかったので、ギャングルのセットをふたつほど、ぶっつけ本番でやってみたんです。そこに何とかライティングを合わせ込めたのが勝因です」と河本選手はスーパーベストの背景を説明してくれた。

開幕2戦ともユウ、西野洋平の二人がマッチレースを展開したPN3クラスは、ヒート1から僅かコマ1秒差でひしめくこの2台が、ライバル達を大きく引き離す異次元バトルが展開された。注目のヒート2はまず暫定トップを奪ったユウ選手が先にトライするが、ストレートからショートカットに飛び込むタイトなセクションで挙動を乱してタイムロス。パイロンタッチも喫してタイムダウンに終わる。

対して最終走者、西野選手はヒート1の自らのタイムを0.7秒近く縮める快心のトライを見せて、ただ一人、1分24秒台のタイムをマーク。逆転で開幕戦に続く2勝目を手に入れた。



PN1&PN2クラス / 1.松本敏選手はPN2で3位に入賞。2.PN1の3位には福田大輔選手が入賞。3.PN1では開幕2連勝の勢いをもち込んだ小俣洋平選手が今回も快勝。4.1年ぶりの勝利に笑顔がほころぶ河本選手。5.PN2山野哲也選手は今季初の黒星を喫した。6.PN1の2位には深川敬輔選手が食い込んだ。





**PN3&PN4クラス / 7.** PN3クラスは西野洋平選手がユウ選手とのマッチレースを制して2勝目を獲得。**8.** PN4クラスでは期待の新星、奥井優介選手が2位入賞を果たした。**10.** PN3磯野剛治選手はロードスター最上位の3位獲得。**11.** PN4角岡隆志選手は1本目のタイムで3位に入った。**12.** 本目のミスが悔やまれるユウ選手。2勝目はならず。**13.** 「1本めから自分の思った通りに走れたので2本めが楽になった。足回りを根本的にやり直して凄く良かったので安心して走れました」。PN4クラスでは野島孝宏選手が今季初優勝を飾った。



**SA部門&SC部門 / 14.** 僅差の戦いとなったSA4クラスは菱井将文選手がもてぎに続いて連勝。**15.** SA3クラスでは西森顕選手が開幕3連勝と好調をアピール。**16.** SC部門では西原正樹選手が2勝目一番乗りを果たした。**17.18.** 自分が踏みたいタイミングより、もっと早く踏んでいいよとクルマが言っているので、少くクルマが暴れても対応できました。SA1クラスは一色健太郎選手が今季初表彰台を優勝で飾った。**19.20.** SA2クラスも一色選手に続いて四国勢が制覇。朝山崇選手が得意の高速コースで今季初優勝。**21.** SA1合田尚司選手が地元エビスで3位入賞。**22.** SA2佐藤巧選手は0.068秒差で3位。**23.** SA3久保真吾選手は1本目のタイムで3位入賞。**24.** SA4の3位争いを制した高瀬昌史選手。**25.** SC高橋和浩選手は3位まで盛り返した。**26.** SA1小武拓矢選手は2戦連続の2位。**27.** 連勝を狙ったSA2高江淳選手だったが今季初の黒星に終わった。**28.** SA3渡辺公選手も2戦連続で2位を獲得。**29.** SA4津川信次選手は痛恨のPタッチで勝利を逃した。**30.** SC大橋渡選手は今回も2位に甘んじた。**31.** 併催の箱Dクラスは川上実選手が優勝した。



「スタートラインで待機している際に、ユウ選手のミスとタイムが間こえたので、120%で行くつもりだったのを115%くらいに下方修正しました。ほぼ完璧な走りのできたので、115%では行けたと思います」と西野選手。「スタート直後にリアタイヤのグリップアップを確認できたし、いいセットが見つかったのでタイムアップを確信して走りました」と快心の走りを振り返った。

今回の大会は序盤2戦、ライバルに連勝を許し、早くも背水の陣に追い込まれたチャンピオン奪還を狙うドライバー達が意地を見せた一戦ともなった。その一人がSA2クラスの朝山崇選手。開幕2連勝の高江淳選手を0.052秒という僅差で下して2018チャンピオンの独走に待ったをかけた。「開幕2戦がボロ負けだったので、今までやってきたことを考え直したんですよ。でも高江選

手のタイムに届く気配するなかったのが、却って良かった。何か間違ってる気づかされたから」と朝山選手。このクラス3位に入った佐藤巧選手も僅差の3位に続き、敗れたとは言え、こちらも速さをアピール。混戦を予感させる展開となった。またPN4クラスでも、チャンピオン茅野成樹選手に先行を許した野島孝宏選手がただ一人、1分20秒を切るタイムを連発して今季初優勝を飾っている。